

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101478		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム 街の夕陽が丘		
所在地	長崎県長崎市築町3-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月 9日	評価結果市町村受理日	令和3年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地でもあり、新型コロナウイルスで、なかなか外出する機会がない中、施設内でも出来るようなレクリエーションの充実や毎月、季節に合った行事を行い、楽しんで頂いています。「大家族をつくろう」を理念に、不安な時は寄り添い、一つの家族のように、入居者様、家族の方、職員が信頼し合える環境づくりを目指しています。日々、笑いの絶えない毎日を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は繁華街に位置し、徒歩で買い物や外出ができる恵まれた環境にある。現在は、新型コロナ禍により外出を制限している中、テレビ電話を活用した面会を実現しており、家族の安心に繋がっている。身体拘束廃止のため、毎月の職員会議で検討を重ねる他、3ヶ月に一度「虐待の芽チェックリスト」を用いてアンケートを実施し、集計結果を基に会議で検討しており、身体拘束廃止に向けての繰り返し丁寧な取組みは、高く評価できる。食事は、3食とも外部業者に委託しているが、検食簿に要望等を記載し、毎日業者へ報告を行っている。また行事の際は、心をこめた手作りの料理や利用者と一緒におやつ作りを楽しむ日もあり、食事をより良いものにしようとする姿勢が窺える。職員会議では活発な意見が出ており、部門別会議では、管理者を経て本部に要望を伝えている。支援経過記録や業務日誌の改定にも取り組む等、改善に向けた職員の意識が高く、チームワーク良く全員で取組む支援に、家族の信頼を得ている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム 街の夕陽が丘
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大家族をつくろう」という理念を共有し、その人らしく過ごして頂けるよう実践に努めている。	法人理念と5つの基本方針を事業所内に掲示し、毎年、理事長による理念の研修にて、職員は理解を深めている。職員は、利用者が人生の先輩であることを忘れず、尊敬の念をもって接しており、本人の話に耳を傾け、家族と一緒に生活歴を知り、本当の家族に近づけるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年までは、地域行事の夏祭りや近隣に買い物等をしていたが、今年はコロナウイルスの為、外出や行事への参加を控えている。	自治会に加入しており、民生委員から地域の情報を得ている。職員は、建物周辺を定期的に清掃している他、日頃から利用している事業所が位置する建物内の病院や薬局とは消防訓練で連携し、協力関係を築いている。現在新型コロナ禍にて、近隣での買い物や散歩は難しい状況である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は少ないが、職員は認知症に対する知識と理解を研修や実践を通して、相談を受けることもある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスで会議の開催を延期することもあったが、書面にて、ご利用者様、職員の状況報告、行事内容報告を行い、必要な助言を頂きながら、サービスの向上に努めている。	例年は2ヶ月毎に会議を実施しているが、今年は新型コロナ禍で4月から書面会議を行っている。利用者状況やヒヤリハット・事故、活動内容の報告等議事録にまとめ、構成メンバーに発送している。ただし、行政担当からの意見や要望は確認できるものの、他の委員からのものは確認できない。	事業所の更なるサービス向上に向け、書面会議においても、会議構成メンバーからの意見や要望等を募り、収集した意見等を基に支援の質の向上に繋げることが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と、日頃から電話やメールにて、協力関係を築いている。行政からの研修案内については参加させて頂いている。	運営上分からないことを問い合わせたり、事故報告の際には窓口に出向いている。新型コロナについては、メールやファックスで最新情報を得ており、マスクや手袋等の配付もある。行政から案内のある研修に職員が参加しており、オンライン研修にも今後参加の予定である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない方針でケアに取り組んでいる。日々のケアでも、身体拘束につながることをしていないか、研修や会議等で話し合っている。	身体拘束適正化の指針を作成し、毎月の職員会議で拘束について話し合っている。職員は、利用者への言葉遣いや声の大きさ、トーンに気を配り、支援に努めている。3ヶ月に一度行う「虐待の芽チェックリスト」を用いた職員アンケートの集計結果を活かし、拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の研修に参加し、虐待のないケアに努めている。毎月、会議にて虐待につながることをしていないか、話し合っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修などに参加する機会を持ち、成年後見が必要な時に支援できる体制をとれるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様、ご家族様等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話、メール、面会時等を活用し、ご意見や要望を言いやすいように、お話しする機会をつくっている。毎月1か月の近況報告をお便りにてお送りしている。	家族からの問い合わせには、電話やメールで丁寧な対応を心掛けている。毎月、利用者の体調や病院受診の結果、薬、食事量等について写真付きの便りを家族へ送っている。新型コロナ禍で面会を制限する中、テレビ電話を活用した面会を行っており、家族の安心に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話づらい雰囲気を作らないように、職員一人ひとりが自分の考えや意見を話せるような環境を作っている。毎月、会議等で意見交換・要望を行っている。	職員会議での発言が多いことやヒヤリハット事例の多さから、職員が運営に積極的に関わっていることが窺える。理事長や部長も事業所を訪れており、管理者は、法人の部門別会議へ出席して現場の要望を伝えており、意見や要望が出しやすい風通しのいい環境である。行事や業務担当を決め、チームワークの構築を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議にて、職員の個々の状態報告や職場環境等について報告・相談を行っている。毎月、代表者の訪問があり、職員と交流している。職員の個々の能力、実績等を把握して、各自が向上心をもって働けるよう、「キャリアパス」を導入していく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、内部研修、外部研修への参加で技術や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流する機会が少ない。法人内で、お互いヘルプに行き、職員間の交流ができている。管理者同士で定期的に情報交換、会議を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様も含め、ご家族様の希望や要望にお応えできるように情報の共有に努め、環境整備に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が悩みや不安を話しやすい関係を構築し、安心して任せて頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと話を聞かせて頂いたうえで、その時・その際に必要なサービスの提案と提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『大家族をつくろう』という会社のテーマに沿った、職員と本人様が家族のように寄り添える関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけではなく、ご家族様も一緒に支援して頂き、共に絆や繋がりを深めてもらえるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ下に於いて、外泊や外出が困難になっております。Webを使ったテレビ電話や、以前お住まいになられた馴染みのある場所の動画などを見て頂き、少しでも安心した暮らしできるように配慮している。	以前は、家族や囲碁仲間が訪れていたが、新型コロナ禍によりテレビ電話でコミュニケーションを図っている。化粧を楽しむ人や日記を付けている利用者がおり、入居前の習慣を尊重した支援を行っていることがわかる。職員が利用者の住んでいた場所の動画サイトを見つけて、鑑賞し懐かしい話題が出てくるきっかけとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や状態を見て、座席の提供を行っている。意見の衝突などした際には職員が間に入らせて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても今後の繋がりを大切に、連絡や相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様の希望や意向を伺い、満足して頂けるように支援している。困難な際には本人様の意向に添えられるように努めている。	新型コロナ禍により外出を制限しているため、「自宅に帰りたい」という願いが多く。家族へ電話を掛けたり、テレビ電話を活用している。居室でテレビを付けていると安心する利用者の他、毎日着る服を自分で選ぶなど本人の思いを尊重し支援している。ただし、一人ひとりの思いが記録の中に確認できない。	個別支援の向上のために、職員が利用者の思いや意向を把握した際、職員間で共有できるよう、検討、取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人に合った生活リズムや習慣を把握し、無理なく出来る範囲で、ご自身で行って頂けるように、職員は意識して支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や顔色、バイタル測定など体調の変化が無い意識して観察を行っている。会話を通し、不安や寂しさなどを抱えていないか確認させて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議とカンファレンスの実行で、現在の本人様に沿った、最適の介護計画の作成・支援の提供が出来るように努めている。	長期12ヶ月短期6ヶ月の目標設定を基本に計画を作成している。毎月のカンファレンスと担当職員が行うモニタリングにより、ケアマネージャーは計画の実践状況を把握している。入退院等含め見直しの際には、家族の意向を聞き、アセスメントを取り直している。本人・家族の同意を得て、計画を実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別計画やアセスメントシートに記入し、職員間で情報共有しながら実践している。状態の変化や留意点がある際には、計画書に反映するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や気持ちの変化に注意して、定期的カンファレンスを開催し、本人様の今のニーズが何かを明確にし支援出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会からの情報等を活用し、行事等の参加が出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回協力医、月1回歯科医による定期受診、往診を行っている。週1回看護師による定期訪問も行っており、特変時や緊急時は、協力医へ連絡行うことで指示を仰いでいる。協力医以外の受診は、家族や職員で協力し、支援している。	協力医による定期的な往診及び、非常勤の看護師による健康状態のチェックを行っている。入居前のかかりつけ医も尊重しており、受診については家族と職員が協力し通院支援している。その際は、本人の健康状態や状態がわかる書面を医療機関へ渡している。夜間緊急時の対応を職員は把握し、適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師による定期訪問を行い、健康管理を行っている。日常生活の中で、気付いたことや特変時等は連絡・相談を行っている。随時、協力医には状態報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して病院での治療が出来るように、家族や医療関係者と情報交換、連絡をし、相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や終末期に向けた方針については、入居された段階で説明を行い、同意を得ている。随時、協力医、家族と相談、話し合いを行いながら、状態変化や今後の事について共有していくように努める。	「重度化した場合における対応に関わる指針」と「看取りのケア指針」を入居時に家族に説明し、同意を得ている。これまでに看取りの実例はないものの、医療行為を伴わない看取り支援については可能であることを伝えている。本人の状態に応じて、主治医と家族と話し合い、家族の心境の変化に寄り添い、支援していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に対応できるようにマニュアルや連絡体制が確認できるようにしている。急変時や事故発生時は管理者、看護師へ報告。協力医へ連絡し指示を頂いている。事故後は対策、対応を話し合い、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月一回の消防訓練と年2回の消防署立ち合いの下での消防訓練を行っているが消防署立ち合い訓練と近隣の協力による訓練はコロナウイルス対策の為に中止。日中、夜間、地震に加えて防犯、水害時での訓練も実施している。	新型コロナの影響で、消防署立会いの訓練と建物全体の訓練は中止となっている。職員は、消防署からの助言や毎月の避難訓練での反省点を活かし次月の訓練に取り組んでおり、夜間時の訓練回数を増やしたり、自然災害の種類別に避難方法を検討している。食料等の備蓄品も整備している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけを心掛けている。申し送りの際には、職員間でのみ分かる言葉で伝えるようにし、プライバシーに配慮している。	職員は、利用者を苗字にさん付けで呼んでいる。排泄誘導の際は、合言葉やアイコンタクトで知らせ、利用者の羞恥心に配慮している。家族への便りに掲載する写真は、本人だけのものを使用し、業務日誌には部屋番号で書く等、個人情報保護に配慮している。職員は、守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を尊重し、納得出来る対応が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを最優先し、本人やご家族様の意向も尊重しながら、本人の希望にそった支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問散髪を実施。毎食後にホットタオルにて顔拭きをして頂き、とても喜ばれて頂いている。行事の際は、お化粧品やマニキュアをする等し楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜、副菜は外注にて利用者様の状態に合わせ食べやすい状態にて提供している。焼き芋やぜんざい、ケーキなど季節に合わせたおやつを利用者様と一緒に調理を行い楽しまれている。又食後のテーブル拭きや盛り付けなど一緒に行っている。	食事は業者に委託しており、毎日、検食当番の職員が味付けや硬さ等を業者に報告している。七草粥、ひな祭りのちらし寿司、バレンタインデーのチョコレート作り等季節感を大切にしている。敬老の日は、老舗の茶碗蒸しを出前で味わっており、外出できない中でも食事を楽しむことができるよう工夫していることが確認できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の健康状態に合わせて普通食、ムース食、ラコール、トロミ等を提供。同じテーブルに職員がつき、食事の様子や水分量、食事量を記録し医師や看護師と情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。一部介助を行ったり、磨き残しがないか確認している。毎月1回、歯科往診にて口腔検診を行い治療や指導を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常的に排泄状況を記録しており、職員間にて情報共有しており、利用者様に合わせた排泄の支援を行っている。	トイレでの排泄を基本としており、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員間でパッドの種類について検討を重ねている。利用者の布パンツ着用での生活を目指す職員の思いが実現した事例がある。失敗した場合は、ドアを閉めて清掃し本人の羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトを提供。排便状況を記録しており、便秘等あれば医師、看護師へ相談を行い、下剤のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴をして頂いている。平日を入浴日にし、いつでもお好きな時に入浴して頂いている。ゆず風呂や菖蒲湯をし、季節を感じて頂いている。	週6日、湯を沸かしており、週2、3日の入浴を支援している。食後は毎回ホットタオルで顔を拭いている他、入浴日以外も清潔保持に努めている。介護度の高い利用者は、体調によっては清拭や手浴で対応している。皮膚の乾燥予防のため、クリームを付けたり、ゆず湯や菖蒲湯でリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムに合わせて昼寝や就寝等、居室にて休んで頂いている。昼夜逆転しないように利用者様によっては昼間離床を促す時もあり。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が週替わりで利用者様毎の服薬を準備をする事、又処方変更がある場合など連絡ノート等も活用し職員間で情報を共有している。誤薬防止の為に服薬時は職員二名で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の興味や趣味などに合わせて体操や塗り絵、クイズを職員や他利用者様と一緒にやる事で楽しみをもって頂いている。又洗濯物たたみやテーブル拭き、料理の盛り付け等、一人一人に合わせた役割をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	去年までは近くの商店街への買い物や公園への散歩、又ご家族様の協力の下に外出を行っていたが、コロナウイルス対策の為に現在は外出を中止している。	事業所は、繁華街に位置しており、新型コロナ禍以前は、車椅子や徒歩で外食に出掛けたり、市場で買い物している。また、くんの庭先回りも楽しむことができる環境にある。現在は、外出を制限しているため、病院受診時の外出が利用者のストレスを軽減する機会となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルに恐れもある為に物品等の購入はご家族様に購入して頂くか、ご家族様了承の下に立て替えにて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて、職員より電話を繋げる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の物を飾ったり、行事の写真を掲示し季節感を感じて頂いている。空気洗浄機や加湿器による空調管理や毎日の掃除をし清潔な共用空間を作っている。	リビングには行事毎の写真が飾っており、整理整頓が行き届いている。空気洗浄機や加湿器を設置し、健康管理に気を配っている。利用者はテーブルを囲みテレビ鑑賞したり、職員と体操で体を動かしている様子が窺える。気になる臭気はなく、職員による毎日の清掃により快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で座って会話が弾んだり、塗り絵やテレビを観ていたり、一人ひとり好きなことをし過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや小物、ご家族様の写真等を置いたりして、ご利用者様が居心地よく過ごせるよう工夫している。	4階と5階にある居室は、持ち込み品に制限はなく、使い慣れた家具やテレビ、家族写真や神社の御札等自由に飾っている。居室の扉には在室状況がわかるカードを提げており、日中自室で過ごす利用者も多く見受けられる。毎日職員による清掃と換気、湿度温度の管理にて居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の心身の状況に合わせた物等の配置をおこなっている。出来るところは安全の為に見守りを行っている。わからない部分は声をかけ支援している。		